

〈資 料〉

幼稚園・保育所の室内色彩環境に関する研究

——京都市内の幼稚園・保育所を対象に——

The Field Survey on the Color Environment of Inside of Preschool and Nursery School in Kyoto

船戸理夢 奥田紫乃*
(Ayamu FUNATO) (Shino OKUDA)

1. はじめに

幼児期は子どもにとって色彩感覚を養う大切な時期であり、幼児期における経験はその後の性格形成に大きく関わると考えられる。また、幼稚園の色彩環境は子どもの色彩の好みに影響を与えるという報告¹⁾もあり、子どもにとって幼稚園・保育所は自宅に次いで長時間生活する空間であるため、その空間は少なからず子どもに影響を与えられられる。そこで本研究では、幼稚園・保育所の室内色彩環境の現状と特徴を知ること、及び保育における色彩の効果的な活用法を明らかにすることを目的として、京都市内の12軒の幼稚園・保育所を調査対象として、実態調査・意識調査を行った。

2. 調査概要

本研究では色彩に関する実態調査及び色彩に関する意識調査を行った。色彩に関する実態調査では、色票(2005年C版塗料用標準色見本帳・新配色カード199b)を用いて視感測色を行い(図1)、同時に写真撮影も行った。全ての調査対象施設において、保育室・トイレを調査することとし、その他必要に応じて遊戯室や図書室等も調査した。色彩に関する意識調査では、色彩で工夫していることはあるか、分かりやすく色わけしていることはあるか等の8項目の質問(表1)を設定し、幼稚園教諭又は保育士を対象としてインタビュー形式で回答を得た。調査対象施設は、京都府私立幼稚園連盟²⁾、京都市立小学校・幼稚園³⁾、京都市情報会館⁴⁾の各ウェブサイトよ



図1 視感測色の様子

表1 質問項目

質問項目
子どもたちのために色彩で工夫・配慮している点
分かりやすいように、色分けしているもの(箇所)
色を用いて安全対策をとっているもの(箇所)
子どもたちの色彩の好みに配慮しているもの(箇所)
“ここ(建築面以外でも)の色彩は変えたい”と思う箇所
“ここ(建築面以外でも)の色彩は変えた方が、業務(仕事)をしやすい”と思う箇所
子どもたちが気に入っている空間(場所)
この幼稚園(保育園)の色彩環境は子どもたちにとって適していると思うか

り幼稚園・保育所を抜粋し、調査許可が得られた公立幼稚園2軒、私立幼稚園7軒、私立保育所3軒の計12軒を調査対象とした(表2)。

同志社女子大学生生活科学部 2011年度卒業生
*同志社女子大学生生活科学部

表2 調査対象幼稚園・保育所

幼稚園・保育所	分類
Y1	公立保育園
Y2	
Y3	
Y3	
Y4	私立幼稚園
Y5	
Y6	
Y7	
Y8	
Y9	保育所
H1	
H2	
H3	

3. 調査結果

3.1 色彩に関する実態調査結果

図2～図5に保育室内及びトイレの測色結果をL*a*b*値で示す。図2より、保育室内では+b*方向(黄要素)の色彩が多く、a*b*値とともに-40～+40の低・中彩度の範囲に集中していることが分かる。これらは床などに木目調が多く使用されていたためである。図3より、保育室内のL*値はおよそ20～95の間に存在しており、低明度のものから高明度のものまで幅広く存在していたことが分かる。低明度の色彩の例としては、天窓の淵にB系やY系、子どもたちへの目印となるテープにR系やG系が使用されていたことが挙げられる。図4より、トイレではb*値は+b*方向(黄要素)に偏っているが、a*値は+a*(赤要素)及び-a*(緑要素)の両方向に広く存在している。これは、各個室ドアの色彩が異なっている施設が12軒中5軒あり、また、各個室ドアや床がBG系やR系の色彩の施設が12軒中4軒あ

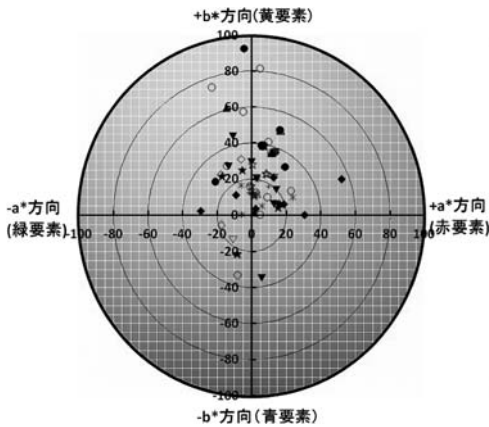


図2 保育室における測色結果 (a*b*値)

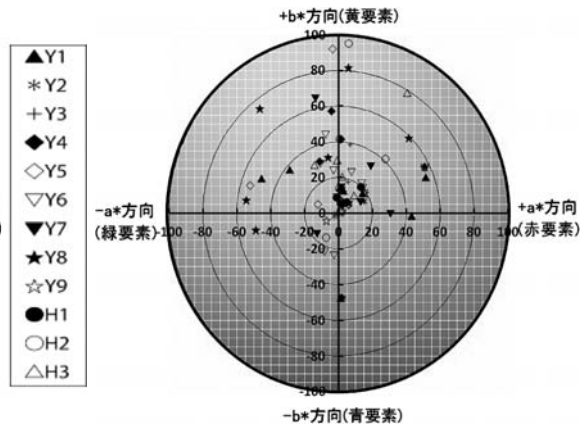


図4 トイレにおける測色結果 (a*b*値)

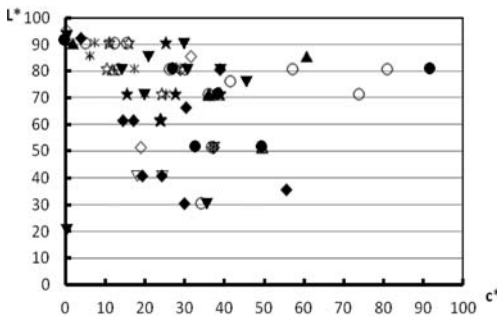


図3 保育室における測色結果 (L*c*値)

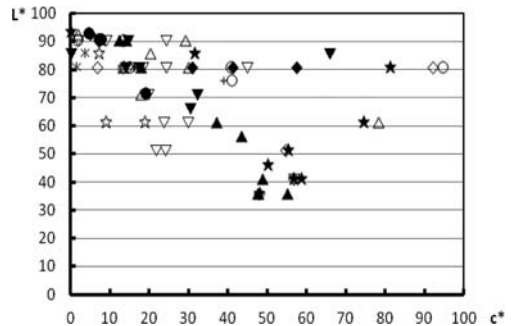


図5 トイレにおける測色結果 (L*c*値)



図6 園舎外観（施設 Y3）



図8 保育室壁①（施設 Y2）



図7 保育室ドア（施設 Y8）



図9 保育室壁②（施設 Y2）

ためと考えられる。図5より、明度は低明度から高明度まで幅広く使用されている。以上のことから、保育室では中彩度の木目調が多く使用され、トイレでは多くの色相が使用されている明るいトイレとなっていることが分かった。これは、トイレを嫌がる子ども達に、トイレは明るくてきれいな場所である、と認識させるための色彩デザイン上の工夫だといえる。

3.2 色彩に関する意識調査結果

意識調査の結果、園舎の色彩に関して、「シンプルな色彩の園舎にしたい」または「木目調で温かみのある園舎にしたい」と回答した施設が12軒中9軒であった。そのうち7軒の施設が現在の色彩環境に満足していると回答し、2軒の施設では色彩環境において変えたい点があると回答した。その2軒の施設では、「外観を落ち着いた色にしたい」（図6）、「園児の作品を展示する場合に、保育室ドアの絵により作品が目立たないことがある」（図7）との意見が得られた。これより、現在の幼稚園教諭・保育士は、シンプルかつ木目調の温かみのある園舎を望む傾向があるといえる。

また、保育室ごとに壁やドア、柱の色彩がそれぞれ異なる施設が12軒中4軒あった。これらの色彩は、彩度



図10 保育室ドア①（施設 H2）

は低いものから高いものまで存在するものの、いずれも高明度であった。また、色相は多彩で、GY、BG、R系など幅広く使用されていた。しかしこのような色彩デザインに対して、「壁の色によっては壁の飾り付けがしにくいと感じる」（図8、9）、「ドアの色彩が部屋ごとに異なっている意図が理解し難い」（図10、11）との意見が得られた。これより、幼稚園教諭・保育士にとっては、色彩デザイン上の工夫が逆効果であったり、デザインに疑問が感じられていたりすることが分かった。

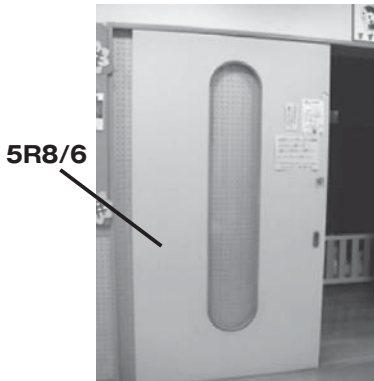


図 11 保育室ドア② (施設 H 2)

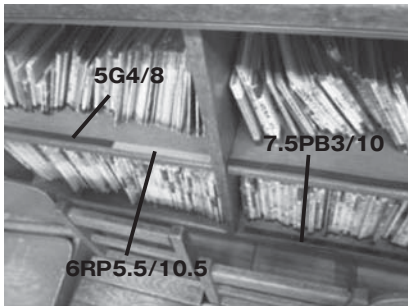


図 13 本揃え位置 (施設 Y 5)

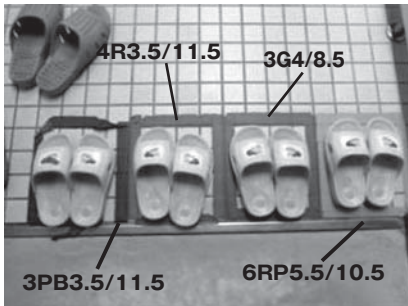


図 12 スリッパ位置 (施設 Y 1)

さらに、幼稚園教諭・保育士による取り組みとして、「色彩で工夫していること」などの項目に対して、目印としてのカラーテープの使用が挙げられた。意識調査において回答がなかった施設を含め、注意喚起の役割としてカラーテープを使用していた施設は 12 軒中 5 軒であ

った。これらの事例を、図 12 及び図 13 に示す。図 12 では、トイレのスリッパを揃える位置を示すためにテープが使用され、図 13 では、本を整理整頓するために、本に貼られたテープと同色のテープが本棚に貼られていた。その他にも、段差を示すためのテープの使用や、子どもたちが集まる位置をクラスカラーの色を用いて示すなど、効果的にカラーテープが使用されていた。これらは、いずれも低明度で高彩度のはっきりとした色彩が多く、明視性を重視していることが分かった。

4. おわりに

本研究の結果、現在の幼稚園・保育所では木目調の温かい園舎が望まれていること、部屋ごとに色彩デザインを変更するといった工夫を行っている施設があること、トイレは多彩な色彩デザインの施設が多い、などの特徴が見られた。一方、幼稚園教諭・保育士には色彩デザイン上の意図が必ずしも伝わっていない場合もあるということが分かった。色彩が単なるデザインとしてのみではなく、子どもたち及び幼稚園教諭・保育士の両者にとって、使いやすく且つ意味のあるものにすることが望まれる。

謝辞

本研究では、あけぼの保育園・永観堂幼稚園・京都幼稚園・京和幼稚園・聖三一幼稚園・聖マリア幼稚園・たんぼぼ保育園・同志社幼稚園・中京もえぎ幼稚園・西陣和楽園・みつば幼稚園・絡陽幼稚園の方々の多大なる協力を得た。ここに記して謝意を表します。

参考文献

- 1) 水野谷倅子・日原もとこ：教育施設の色彩環境条件が幼児に及ぼす色彩感覚，デザイン学研究，研究発表大会概要集 45, pp.130-131, 1998. 10
- 2) 京都府私立幼稚園連盟 (<http://www.kyoshiyoh.com/>) 2012. 1
- 3) 京都市立小学校・幼稚園 (<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/>) 2012. 1
- 4) 京都市情報会館 (<http://www.city.kyoto.lg.jp/>) 2012. 1

(2012 年 11 月 9 日受理)